

2023.10.3

2023～2024年度 国際ロータリー会長  
ゴードン・R・マッキナリー2023～2024年度  
国際ロータリーのテーマ

2023-2024・第7号

地域社会の  
経済発展月間2023～2024年度  
クラブテーマ 「one for all, all for one でロータリーを楽しむ」

[本日の例会] 会長の日・雑誌の日

[次回予定] 10/10(火) 休会 定款第7条第1節(d) 祝日週  
10/17(火) ガバナー補佐クラブ訪問

・・・例会報告 / 9月26日(火)・・・

## ■卓話 地域コミュニティ施設「桜木コミカ」柴田和裕様

&lt;ご来訪者&gt;

地域コミュニティ施設「桜木コミカ」柴田和裕様

ソングリーダー  
新井 一朝 君

本日の食事

## ■ニコニコBOX(9月26日)

松澤 達也 君 桜木コミカ 柴田様、  
今日は卓話よろしくお願ひ致します

淡島 信二 君 柴田様、本日はありがとうございます

橋爪 良真 君 先週の月見例会は大変ありがとうございました

大嶋 秀男 君 元気ですよ

	ロータリー財団		米山記念奨学会
	年次寄付	ポリオ寄付	
本日の合計金額	54.77ドル	47.92ドル	18,000円
累計金額	2376.75ドル	420.53ドル	229,000円
年度目標	4500.00ドル	900.00ドル	390,000円
達成率(30名)	52.82%	46.73%	58.72%

## ■ロータリー財団寄付

(年次)

竹内 儂嵩 君 水上 勝之 君 森本 淳 君

(ポリオ)

竹内 儂嵩 君 水上 勝之 君 森本 淳 君

## ■米山記念奨学会寄付

竹内 儂嵩 君 水上 勝之 君 森本 淳 君  
乾 宏行 君

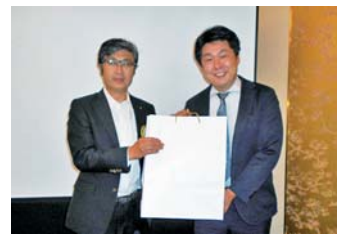
## ■食事状況(9月26日)

※食事のムダをなくすために、  
出欠・食事有無の連絡に  
ご協力お願い致します(SAA)

食事数	26食
無連絡欠席者	0名
食事余り	3食

■出席報告  
(9月26日)

会員総数	31名
出席計算会員数	31名
当日出席者	19名
会場出席率	61.29%



卓話 地域コミュニティ施設「桜木コミカ」柴田和裕様

(以下、柴田様からの卓話原稿を一部抜粋)

コミカは「地域で作るみんなの居場所」をテーマに、1階は駄菓子コーナーのほか、スペースにはソファや勉強机、マンガやゲーム機などを取りそろえ、居場所としての機能、2階はITをメインとして教室を運営してITコミュニティの育成、合わせて居場所とITコミュニティを育む場所として運営しております。

駄菓子屋と言えば昔は各小学校区に複数見られましたが、今ではほとんどなくなり、倉賀野にも駄菓子屋はコミカしかない現状、倉賀野小、矢中小の丁度間にあることもあり、日々、学区を越えた子供たちのふれあいの場所として利用されています。

利用者は子供が中心になりますが、地域の住民の方々にも浸透してきておまして、夏休みはもちろん、土日のお休みを中心に子供たちがたくさん来てくれています。平日は10～20人、土日などのお休みはだいたい40人くらい、多い日は100人を超える来店がある状況です。

コミカは駄菓子屋とITコミュニティの場所であるご説明をしましたが、どんなコンセプトで立ち上げたか、どんなところなのか、というところを簡単に説明させていただきます。

コミカはコロナ禍の2021年に始まりました。パンフレットにも『長引くコロナ、成長の過程で失われた子供たちの時間と経験。』もともとあった子供たちの不安も多様に深刻になっていく。』とありますが、コロナというひとつの大きな

問題でそれまで当たり前だった子供たちの行動が大きく制限されたことにより、多くの時間と経験が失われてしまいました。

成長にもっとも大切な時期に、学校にいけなかったり、マスクをして友達や先生と会話をするようになり相手の表情が見えず自分の思いをすべて伝えることができなくなったり、どんどん子供たちの地域の居場所が休業や閉鎖などでなくなっていったり、行動が制限されることで、経験も制限され、子供たちの不安はさらに多様に、さらに深刻になっていきました。

私たちは子供たちが実際にこんなに困難な状況にいることを知っていたのでしょうか？こんな状況でこれからの未来は大丈夫なのでしょうか？この状況を作ったきっかけはコロナだったかもしれませんが、その前からずっとこういう問題は山積みになっていて、この課題をなかなか解決できなかったのです。もちろんすべてを解決することはできないかもしれませんが、私たちは子供たちが安心して居られる居場所を作り、少しでも子供たちに寄り添った場所を作りたかったのです。

コミカは、地域の山積みになっている課題を補い合って解決できるきっかけの場所にするためにできました。なにも世界の子供たちを救うわけではありません。日本中の子供たちの問題を解決しようというわけではありません。地域の人や企業が自分たちの地域のことだけもう少し考えて行動してくれば、それが波紋のように広がり、やがて世界中の子供たちを救うきっかけになる。そう願うコミカはお店を開けて子供たちを待っています。

## ■ コミカはこの4つのことを大切にしています。「安全、体験、共感、支援」です。【写真を見ながら事例をご紹介します】

- ◎地域のお母さんやお父さんに声をかけて子供たちと駄菓子屋の壁のペンキ塗りをしました。初めて経験するペンキ塗りに子供たちはみんな大興奮！大人は大変でしたけど、地域みんなが自分たちの居場所作の第一歩になったと思います。
- ◎コミカに置く駄菓子を決めるために子どもたちに選挙をしてもらった時の写真です。子どもたちが自分の好きなお菓子里に1票を入れて人気のあった駄菓子を販売しています。今では、駄菓子は買わずに学校終わりに来て宿題をみんなでしたり、毎日お小遣いを握りしめてくる子もいたり、地域の子供たちには欠かせない居場所になってきました。
- ◎地域の高齢者の方に『お茶飲みボランティア』と称してご協力をお願いしていますが、独居の高齢者の方は、コミカに来て子供と触れ合うことで、日々の生活に張り合いが出てきたと仰ってくださっています。少しずつではありますが、子供だけでなく、地域のあらゆる人が、前向きになれるような場所として徐々に進化してきているのです。
- ◎駄菓子だけでなく、2階では、パソコンを作るワークショップをしたり、 아이폰 標本を作る夏休み工作ワークショップをしたり、子どもたちだけでなく、大人の会議室になったり、大人向けのワークショップを行ったりしています。

## ■ 今回、ご寄贈いただいたマックスハブの設置について、寄贈式の映像をご覧ください。【映像を見ながらご案内】

さっそく子供たちは電子黒板の機能を使って絵をかいてみたり、大好きなユーチューブを見たり、すぐに使い方を覚えて今ではコミカにくる子みんながマックスハブを使いこなしています。いまの子供たちは生まれながらのデジタル世代、デジタルネイティブなどとも言われますが、本当にデジタル機器の使い方を覚えるのが驚くほど速いんです。私もデジタルは多少扱えると自負しているのですが、子供たちはちょっと基本的な使い方を教えてあげると、すぐに使えるようになり、中には逆に私の知らない応用的な使い方を発見して、教えてくれる子まで出てきています。

ITは、行けないところに行った疑似体験ができたり、インターネットで繋がることの経験ができたり、デジタルで表現することができたり、多種多様な経験を子どもたちに与えてくれます。もちろん、使い方を間違えないように教えるために大人も一緒に学んでいく必要はありますが、本当にマックスハブを前にした子供たちは目がキラキラ輝き自由に使ってくれています。

今回ご寄贈いただいたマックスハブは、コミカを利用してくれる子供たちの創造性や経験をおおきく育ててくれ、彼らが未来を一生懸命切り開いていく上で、いいきっかけになってくれることでしょう。私たち大人はもっともっと地域を見て、子供たちの未来のために、なにができるかを考えていかななくてはなりません。

この度は、高崎セントラルロータリークラブの皆様、子供たちに素晴らしい経験をプレゼントいただき、本当にありがとうございました！これからも私たちは地域の子供たちのために活動してまいりますので、これからも一層のご協力をよろしくお願いいたします。本日はありがとうございました！



例会場・事務所／ホテルグランビュー高崎 高崎市柳川町70  
TEL 027-310-7722 FAX 027-310-7733  
E-mail : takasaki-cent@rid2840.jp  
例会 / 毎週火曜日 18時30分